

地図画像からルートデータを作成する依頼方法

目的 手書きルートを示した複数の地図画像から、一つにつながった GPX、GeoJSON、国土地理院地図用の表示データを作成してもらうための依頼方法です。画像の撮り方と確認点を揃えるほど、画像間の接続精度が上がります。

そのまま使える依頼文

添付画像は、地図上に手書きで示したルートです。

各画像の URL 欄や中心座標、縮尺、画像間の重なりを確認し、線を座標化して一つの連続ルートにしてください。

次のファイルを作成してください。

1. 約 5m 間隔で滑らかに補間した GPX
2. 国土地理院地図で読み込める GeoJSON
3. 国土地理院の標準地図上にルートを表示する HTML
4. 元の推定線と補間後の線を比較できる地図

画像間で線が途切れている部分は、地形と前後の線形を参考に接続してください。推定した部分は明記してください。

ルート名は「〇〇古道」としてください。

添付画像に入れてほしい情報

- 地図の中心座標またはブラウザの URL
- 縮尺
- 方位が北向きであること
- 隣の画像と重なる範囲
- ルート線全体
- 地図のズームレベル
- 分岐点や始点・終点の名称

座標の読み取り例 全国 Q 地図のアドレス欄にある「#17/37.039250/139.618673/」は、ズームレベル 17、中心緯度 37.039250、中心経度 139.618673 を示し、画像から位置を復元する際の手掛かりになります。

画像の撮影方法

- すべて同じズームレベルで撮る
- 画像を進行方向に沿って順番付けする
- 前後の画像を 30～50%程度重ねる
- 線は黄色など、背景と区別しやすい色にする
- 線を細く、途切れないように描く
- 画面の拡大率を途中で変えない
- 始点と終点を丸印などで明示する

精度をさらに上げるために添付できる資料

- 現地で記録した一部の GPS 地点
- 始点・終点の正確な座標
- 分岐点や峠の座標
- 元の GIS データや KML
- ルート線を描く前の地図画像
- 実際の歩行記録

推奨 最低でも始点、終点、途中の確認点を数か所指定すると、画像間の位置ずれを補正しやすくなります。

作成データを利用するときの注意

画像から作成したルートは**推定データ**です。滑らかな補間によって位置点を増やしても、現地測量と同じ精度にはなりません。実際の歩行や登山に使用する場合は、地形、通行状況、現地標識、信頼できる GPS 記録などと照合してください。